

資 料	1
-----	---

令和3年度第4回 涌谷町健康と福祉の丘運営委員会説明資料

令和3年度第3回 涌谷町健康と福祉の丘運営委員会議事録

令和4年2月18日

涌谷町町民医療福祉センター

令和3年度 第3回涌谷町健康と福祉の丘運営委員会（本会議） 会議録要旨

1. 日 時 令和3年11月19日（金）午後3時00分～午後5時00分
2. 場 所 町民医療福祉センター 研修ホール
3. 参集者 戸田委員長他、別紙委員名簿のとおり
 <役場>
 遠藤町長、高橋副町長
 総務課：高橋課長、佐藤総務班長
 企画財政課：戸澤課長補佐、大川班長
 <センター>
 大友センター長、佐藤副センター（看護部）長
 総務管理課：吉名事務長、阿部総務管理課長、遠藤渉外担当専門官
 宮課長補佐、平塚班長
 健康課：木村健康課長、菅原課長補佐、紺野健康づくり班長
 福祉課：木村課長、渡邊課長補佐、佐々木包括支援班長
 子育て支援室：佐藤室長 計28人

4. 概 要

1) 開 会 (15:00)

2) 挨拶	
遠藤町長	<p>お忙しい中ご参集いただきありがとうございます。先ほど司会の方からコロナの話が出ましたが、ここにおられます米谷先生をはじめ、町内の先生方にご努力をいただき、おかげさまで町民の接種率は90%になろうという状況です。しかし、このコロナ禍においてまだ油断できない状況でありますので、もう一度気を引き締めて対応していきたいと考えております。今日は11月補正、12月補正についてご審議をいただきたいと思っております。また、病院会計・老健会計・訪問看護ステーション会計についてさまざまなご意見を頂戴したいと思っておりますのでよろしく願いいたします。</p>
大友センター長	<p>お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。本日は久しぶりに皆さんと集まって会議ができます事をうれしく思っております。このコロナ禍において各部門が苦慮して運営を行っておりますが、特に病院、老健ではいまだ面会が再開できておりません。患者の皆様、家族の皆様には大変ご心配をおかけしているところですが、もう少し我慢していただきたいと思っております。病院としては、感染対策に力を入れているため、少々入院が落ちている状況ですが、皆で頑張っております。また、病院改革の短期目標として医師確保を上げておりますが、例年以上に若くモチベーションの高い医師が来てくれました。患者様からもとても好評をいただいております。中長期的には、いつかこちらに帰って来てもらえればと研修医の受け入れを進めましたが、今年度は東北医科薬科大学から5名、その他の施設からも数名を受け入れ、指導教官が良いと高い評価をいただいております。今後とも皆様のご期待にそえるよう頑張ってみりますので、どうぞよろしく願いいたします。</p>
戸田委員長	<p>皆様お疲れ様です。久しぶりの開催になりますが、これまでに新聞記事で3回位涌谷町の財政再建等の記事を目にしました。先日の大崎タイムスでは、第4回目の有識者会議について、町が有識者委員会に対して諮問書を出し、来年の2月位には答申が出るとの内容でした。この丘の</p>

3) 報告事項

上でも今後の町の色々な在り方を委員の皆様からお聞きしていますし、センター長から現状のマンパワーなどの概況のお話などもありました。また、違う方向からとして有識者会議のお話も出てくると思います。涌谷町として、そろそろ具体的な形を示していく時期に近づいているのだと思います。そのような時期に今回の委員会の開催がありますが、委員の皆様のご意見を参考にさせていただき、今後の医療・福祉のあり方についてお考えいただければと思います。

令和3年度各種会計11月補正予算(案)について

…資料1を担当課より説明…

(質問・意見なし)

令和3年度各種会計12月補正予算(案)について

…資料2を担当課より説明…

吉田委員

介護保険勘定特別会計に関連してですが、施設介護が充足しているのかどうか。将来に向けての心配です。財調が1億8千7百80万もある。介護保険制度の中身の問題ではあるが、介護保険料を徴収していて、介護保険制度が成り立っている。基金がプラスだマイナスだということにマスコミは終始してしまうが、一番の問題はきちんとした介護ができていのかということであり、働く人の低賃金も問題である。現場の実情を国に訴えていかなければならないと思うが、その所はどう考えているのか。

木村課長

基金のお話がありましたが、「介護給付費1ヶ月程度の金額があれば基金としては大丈夫」といわれておりますが、おおむね1億位あれば大丈夫と考えております。それを下回りますと介護サービスに影響が出てまいります。今の基金の状況では大丈夫であると考えております。また、施設介護の状況ですが、町内にはいくつか施設がございますが、こちらの利用状況につきましても心配されているような報告は受けておりませんので、現状ではきちんとした介護がなされているものと考えております。低賃金の関係については、国の方でも改善する旨の話があるようですので、今後改善されていくのではないかと考えております。

吉田委員

現場の実態が制度とあっていないような気がしてなりません。需要と供給のバランスが悪く、無理やりあわせて溢れている状況があると思われまます。需要と供給が釣り合えばプラマイ0で良い会計と思います。基金が「1億もなければならぬ」という考え方は決して正しいものではないと思います。制度上、給付に問題があるから残高として残っているのではないのでしょうか。是非、そのあたりを機会があるごとに政府当局、政策側に声を上げていただきたいと思います。

木村課長

介護保険の関係につきましては、令和3年度から5年度までの第8期の見直しを行っているところでございます。ご指摘のありました施設サービス、介護医療サービスなど給付の見込みも考慮しながら介護保険料基準額を据え置き6千円とさせていただきました。基金については、この3年間で4千万円使わせていただいたところです。今後、高齢化に

戸田委員長	<p>より介護給付費の金額等が増加することも予想されますが、第9期においてはそれに見合った基準額の見極めを行い、額の決定をしていかなければと考えております。</p> <p>介護サービスの利用は種類も多く申請もたくさんあると思います。常に地域で利用できるサービスをお知らせすることを忘れずにいただきたいと思います。</p> <p>認定調査委託料ですが2号被保険者はすべて適用になるのでしょうか？</p>
菅原課長補佐	<p>はい、特定疾病に該当する2号被保険者の方については該当になります。</p>
吉田委員	<p>コロナ補助金5,056千円に対する持ち出しはいくらになりますか？</p>
阿部課長	<p>購入した物については100%補助となっておりますので、持ち出しとしましては、端数のみとなっております。</p>
吉田委員	<p>感染対策症は法律で定められており国県の責任でやらなければならないものです。現場の能力をお借りしなければ事業が完成しないということで協力するという事は仕方ないと思います。しかし、なぜ町が直接やらなければならないのかわかりません。</p>
阿部課長	<p>昨年も同様の質問をいただいたと記憶しております。この件につきましては回答が難しい質問ですが……。補助金につきましては、メニューにあるもので大変ありがたいと考えております。</p>
吉田委員	<p>気を付けていただきたいのは感染症や伝染病については本来、国県がやるべきもの補助金として入れることで、責任が現場に転嫁されてしまう恐れがある。国県が第三者的な立場で補助金を交付することで、町を助けてあげているといった考えは間違いであると認識し、受け入れて欲しいと思います。</p>
米谷医師	<p>委託料の医師コンサルティング料が高額ですが、何人分の料金になりますか。</p>
阿部課長	<p>これはコロナワクチンの予診医に係る医師確保のための委託料で、金額は約60万円程度になります。その他は事務補助員を派遣会社に委託している委託料が350万円程度になります。備考の書き方が悪く誤解を招く表現でした。申し訳ありません。</p>
4) その他	<p>各事業会計実績及び執行状況（9月まで）</p> <p>…資料3を担当課より説明…</p>
高橋委員	<p>只今数字の説明をいただきましたが、これは上期の実績になると思われます。予定量も決まっていますし、中には50%に満たない部分も見られます。この数字をどのように分析したかなど聞かせていただければと思います。</p>

戸田委員長	<p>また、一日平均食数の計算方法がわかりません。この数字はどのように出されたものでしょうか。</p>
阿部課長	<p>国保病院、老健施設、訪問看護ステーションの3会計について稼働率が50%に達していない理由などを説明願います。 また、一日平均食数についての説明をお願いします。</p>
平塚班長	<p>主に患者数につきましては、コロナの関係で受診控えがあったと考えております。また、病院離れもあるように考えております。入院につきましては、夏頃、近隣の医療機関でクラスターの発生があり、入退院がすべて止まりました。そのため紹介がストップし、入院患者数の減につながったと考えております。 一日平均食数の考え方ですが、807という数字については半年間の累計を表示しております。流動食や絶食が必要な方などもおり単純に入院患者数割る3にはなりません。</p>
高橋委員	<p>老健施設の入所状況ですが、48.5%と50%に達しておりません。コロナの関係で面会をお断りしており、それを理由に利用を控えている方、体調不良を理由に利用を控えておられる方もおりました。また、通所ではコロナワクチン接種の為に休みする方、接種後の体調不良を理由にお休みされる方も多くおられ利用率は上がりませんでした。徐々にですが利用される方も増えてきておりますが、これから冬場に向かい体調を崩される方も増えてまいりますので、推移を見守りたいと考えております。 訪問看護ステーションについてですが、リハビリ部門について、こちらにもコロナの影響を受けております。本人及び家族のワクチン接種のために利用を休む方、スタッフとの接触が怖いという理由で休む方などがおり訪問件数が伸びませんでした。</p>
阿部課長	<p>一日当たりの平均食数は半年分の合計ですね。 そうです。</p>
小野委員	<p>老健ですが、現在入所48.6%の利用率ですが、申し込んでもすぐに入所できないことがあると聞いております。待機人数があるのでしょうか。 また、病院の患者数が減っていますが、国保病院は新規の場合かなり時間がかかり「もう病院に行きたくない」という声も聞かれます。新規の方ももう少しスムーズに診察していただければと思いますでしょうか。</p>
平塚班長	<p>老健ですが、入所にあたり事前に色々な調査を行います。申し込まれた後に、その方に適したサービスの検討などを行いますのですぐに入所にはつながりません。事前調査の結果をもとに利用検討委員会を開催し入所の判定という流れになっておりますので、少々時間をいただいている状態です。出来ましたら早め、早めに連絡をいただければと思います。</p>
戸田委員長	<p>常時もしくは季節的な待機の数についてはわかりますか。</p>
平塚班長	<p>待機人数は一般棟、認知症専門棟によって違いますが、冬場は増える</p>

阿部課長	<p>傾向にあります。現在はほぼいなかったと聞いております。 現場には出来るだけ早い対応について話をしていきたいと思っております。</p> <p>内科の新患についての流れですが、新規の患者様は1診という所で診察されます。医師の間診後、状況に応じてですが、検査に行ってください、その結果が出てから検査結果をもとに再度医師から説明を受けるといように病院内を行ったり来たりしていただくようになります。その度に待ち時間がありますので、どうしても新患ではない患者様に比べると時間がかかっているのが現状です。今までも待ち時間が長いとお話を頂くつど対応について検討し、調整させていただいておりますが、さらに外来、医事の部門とも検討し対応させていただきたいと考えております。</p>
小野委員	<p>患者側は流れについてある程度わかっております。その方は中待合室に案内されてから1時間以上待たされ、忘れられているのではないかと考えたそうです。そういうことにあった方が1人ではなく複数人おります。現状をよく把握していただき、善処していただきたいと思っております。</p>
看護部長	<p>貴重なご意見ありがとうございます。患者様をお待たせしてしまった事については申し訳ありません。1診というのは救急車や急病の患者様を受け入れるところでもあります。もしかしたら検査説明を行う前のタイミングで急患の患者様が入ってしまい、お待たせしてしまったかもしれません。しかし患者様の優先順位に応じて診察を行わなければならないこともございます。その際はなおさら看護師の方できちんとした説明を行い、ご理解を得るようにしていきたいと思っております。</p>
小野委員	<p>前回もお話しさせていただきましたが、そういう時は別の医師に対応していただくとか何か方法を考えて欲しいと思っております。患者を待たせて良いことはありません。一度噂がでると患者さんが離れて行ってしまいます。是非改善をお願いしたいと思っております。</p>
遠藤委員	<p>老健の関係ですが、居宅介護支援事業所の数字をみると通所りハや予防がもう少し伸びても良いのではと思っております。面積要件や人的要件で問題でもあるのでしょうか。</p>
平塚班長	<p>利用者獲得に向けて営業努力をしていますが、なかなか利用に結びついておりません。また利用の申し込みがあっても体調不良等の理由で結果入所できなかった方もおられます。今後も近隣の居宅介護事業所に働きかけ、更に利用者獲得に向けて行きたいと考えております。</p>
米谷委員	<p>手術件数ですが、外科・泌尿器科の数字が上がらないのはわかりませんが、眼科は常勤医であったと思っております。 平成29年度、30年度も低いと感じますが、それと比べても0とはかなり数字が低いと思っております。なぜ手術件数が上がらないのでしょうか。何か理由があるのですか。</p>
阿部課長	<p>眼科は今年度4月から新たに常勤医に来ていただきました。その先生の方針で、1人で手術を行うのはリスクがあるため避けたいというのが本人の方針とのことです。</p>
米谷先生	<p>手術機械は新品の物があつたのではないのでしょうか。</p>

阿部課長

いえ、手術機械は売却済みです。

米谷委員

そうですか。「手術機械がないから出来ない」と「個人の方針ではない」のでは全然違います。常勤医がいるのにもったいないですね。出来れば手術をしていただくよう頑張っていたきたいと思います。

吉田委員

医療現場が沈滞しているように感じます。公が病院を持つ意義、これが重要なのですが、町の財政危機が表面化し、その内側に「病院が起因している」という報道があります。そういうことになると、現場の意識はどんどん沈滞していきます。色々な点でやる気をなくしている。看護師の問題、中待合で長時間待たされているなど問題が山積されている。現場を任せられている管理者が頑張っている姿も見られますが、人材の確保がうまく機能していない。公が病院を持つ役割を当局も含め、認識を新たにしなければならない時期に来ているのではないかと思います。このコロナ禍は全国的に大変な問題でしたが、公の医療機関がこの危機に果たす役割は非常に大きかった。常に経営状況が再三問題にされているが、それに即して保健・介護・福祉を包括的なものにする事業経営では無理が発生している。公が医療を持つ重要性を再認識されたい。コロナ禍で色々な障害が現場に発生し、影響を受け、医療の体質が変質化している。民間を含め国にはこのような時こそ救済措置をお願いしたい。

この病院は全適であり管理者が経営責任を丸ごと負っている。現場の状況を良く認知されていない方々が経営の中身に様々なことを言うが丘の上委員会としてはいかがなものかと考えている。是非「任せるところは任せる」「出さないといけない金を出す」をきちんと経営の中身に踏み込んでくるのは抑えた方がいいのではないかと思います。

町は病院を継続していく方針と聞いております。町は管理者を信頼していただき、経営をお任せしていただきたいと考えております。

米谷委員

外来の延べ数を見ますと5～7月と伸びています。この状況はそう悪くないと思います。総合病院では内科が重要で、特に消化器と循環器が大事です。患者を紹介しますと良い返事が返ってきており、今の町立病院の能力はいい所にあり頑張っていると思います。

国保病院の現状と運営方針について

…資料4を担当課より説明…

小野委員

新聞に載っている病院の内情です。河北新報にも掲載され、内容は本当だと思いますが、あのような記事は町民にはマイナスだと思います。町民に向けてこの病院は必要だということも明言して欲しいと思います。121床を99床に減らすという問題もあると聞きます。なくなったベッドはどうするのでしょうか。住民のための病院であるはずが、利用したいが、利用したくない病院であるように感じます。町としての考えを示して欲しい。

戸田委員長

新聞等の報道では4回目の有識者会議の前に講座を開いたとの記事がありました。その中で講師から病床を減らすという話も出たようです。丘の上委員会では病院の機能も大事にしようと話をしています。病院経営も改善に向けて努力しようとしている中で、町主催の講演会が開催さ

高橋課長	<p>れた。新聞に掲載することで何か意図があったのか、すでに方向性が決まっていると誤解する町民もいると思う。地域になければならない病院であるという講演会もやらなければいけないのではないか。財政の立て直しと住民の健康と福祉を両軸に町民の意見も聞きながら慎重に進めていかなければ偏った形になるのではないかと思います、その点はどうか考えているのでしょうか。</p>
戸田委員長	<p>10月27日に地域医療理解講座を開催いたしました。開催の理由といたしましては、有識者会議の立ち上げの背景には財政非常事態宣言があり、それぞれの項目を見直そうというものが 있습니다。その中の一つに公営企業会計への繰出金の項目があります。これは病院会計のみをさすものではなく水道企業会計等その他の会計も併せて議論しているところでもあります。今回有識者会議の中で議論するにあたり、何が論じられているのか、何が問題なのかわからないといったことにならないよう今回宮城県保健福祉部医療政策課、市町村課など担当部署の方々にお出でいただき、病院を取り巻く状況、涌谷町における財政状況についてお話を頂いたということです。</p> <p>それでは、涌谷町の財政全般の問題で、その中の一つとして病院会計も取り上げられたということによろしいですね。</p> <p>有識者会議の考え方と違う意見を持っている町民も半数はいると思います。健全な立て直しに尽力いただいている方々の出鼻を挫く形になっているのが残念に思います。財政の立て直し、病院の理念を崩さないように。住民に理解してもらえようように努める必要があると思います。</p> <p>新聞記事のみを見るとあの数字だけ特出して見え、「すべて病院が悪い、なくせばいい」となってしまう可能性がある。なぜ病院が必要かということもあわせて説明していく必要を改めて思います。</p>
吉名事務長	<p>新聞報道が病院運営に大きく影響が出ていると感じています。ネガティブなイメージが先行し、医師の招聘でも7名の医師にお断りをされております。ぎりぎりの医師数でやっておりますので、先ほどの手の空いた医師がいなかったことにつながっております。有識者会議の中でコロナ禍での役割を聞かれましたが、石巻赤十字病院、大崎市民病院からコロナの回復期にある患者様の受け入れについて相談があり、対応したことについて話をいたしました。受け入れた人数は少なかったのですが地域連携に貢献できたのではないかと考えております。</p>
戸田委員長	<p>センター長の挨拶にありました来年度以降の医師の採用等についての話をもう一度お聞かせ願えますか。</p>
大友センター長	<p>来季ではないのですが、現在、東北医科薬科大学から5名、他の医療機関から数名の研修医に医師の指導力に評価をいただき研修先として選んでいただいております。その方達は24年から医師として受け入れることができます。その年から毎年1名ずつ引き受けることになっております。</p>
戸田委員長	<p>そのほかはいかがですか。</p>
米谷委員	<p>有識者会議に出席しておりますが、報道と会議の内容ではずいぶん印象が違っていると感じております。会議では市町村課の方から、「町の危機的状況は回避されました。なお、この先も努力して下さい。」といった発言</p>

	<p>もあり、病院経営についても「平均的な数字で悪くない」と聞きました。もちろん悪い部分もありますので、それらを繋ぎ合わせると、すごく悪く見えてしまうと思います。そのような報道には負けないで、町としても病院としても明るい話題を町民に繰り返し正しく伝えることが大切ではないかと考えます。</p>
戸田委員長	<p>有識者会議に出席されている米谷先生の発言をお聞きし、安心いたしました。病院のあるべき姿に向けて頑張っていこうと思います。</p>
遠藤町長	<p>ご心配をおかけしております。医療センターは特に大事な施設です。有識者会議に出席されている方々が取って代わって経営を行うということではなく、再建に向けてどのように持っていくのか彼らの持っている情報を、管理者、事務長、総務管理課長など事務方に運営の参考にしてもらいたいと思っています。財政再建の中で様々な事業を圧縮してやっていますが、病院を残す事が大事なテーマであると思っています。システム構想の核でありまず医療を再構築したい。そのために皆様にご協力いただきたいと思いますと考えております。</p>
戸田委員長	<p>町長からの話をもって今回は終了とさせていただきます。</p>

事務連絡 ①次回は2月下旬予定

5) 閉 会 (16:30)

涌谷町健康と福祉の丘運営委員会委員

(任期: 令和2年4月1日～令和4年3月31日)

番号	委員会 職名	氏名	選出根拠	部会職名	部会構成	役職等	出欠
1	委員長	戸田 慎治	1号委員		病院・老健・訪看事業部会 保健・福祉・介護部会	戸田歯科医院院長	○
2	副委員長	長 純一	1号委員	部会長	病院・老健・訪看事業部会	元石巻市立病院医師	×
3		米谷 則美	1号委員		病院・老健・訪看事業部会	米谷医院院長	○
4		吉田 正義	1号委員	副部会長	病院・老健・訪看事業部会	元大崎市民病院管理者	○
5		小野 秀一	3号委員		病院・老健・訪看事業部会	行政区長会会長	○
6		高橋 俊吾	2号委員	部会長	保健・福祉・介護部会	涌谷町社会福祉協議会会長	○
7		佐々木 富貴代	2号委員		保健・福祉・介護部会	健康推進員協議会会長	○
8		門田 まり	3号委員		保健・福祉・介護部会	食育推進協議会会長	○
9		遠藤 良治	2号委員	副部会長	保健・福祉・介護部会	民生委員・ 児童委員協議会会長	○

- ・1号委員: 保健、医療、介護、福祉等の領域について専門的知識を有する者
- ・2号委員: 保健、医療、介護、福祉等の領域について地域活動等の経験を有する者
- ・3号委員: 一般の町民

涌谷町健康と福祉の丘運営委員会 名簿

NO	所 属		職 名	氏 名
1			町長	遠藤 稔雄
2			副町長	高橋 宏明
3	町民医療福祉センター		センター長	大友 和夫
4	国保病院	看護部	看護部長	佐藤 美由紀
5		事業部	部長兼事務長	吉名 正彦
6		事業部 総務管理課	課長	阿部 雅裕
7		〃	渉外担当専門官	遠藤 彰
8		〃 総務班	課長補佐兼班長	宮 まどか
9		〃 管理班	班長	平塚 睦晴
10		地域医療連携支援部 教育研修センター	医局秘書兼主任	安達 祥子
11		健康課		課長
12	国保介護班		班長	菅原 美紀
13	健康づくり班		技術次長兼班長	紺野 寿子
14	福祉課		課長	木村 智香子
15		福祉班	課長補佐兼班長	渡邊 千春
16		包括支援班	班長	佐々木 敦
17	子育て支援室	子育て支援室	室長	佐藤 明美
18	総務課		参事兼課長	高橋 貢
19		総務班	班長	佐藤 達雄
20	企画財政課		参事兼課長	大崎 俊一
21		企画班	課長補佐兼班長	戸澤 貴志
22		財政班	班長	大川 雄一